

発行元：株式会社サポート・ワン・サービス
 愛知県津島市愛宕町四丁目113 〒496-0036
 代表TEL：(0567) 26-3921
 FAX：(0567) 26-3922
 ホームページ <http://www.s-o-s.co.jp>

<総合防災訓練 / S・O・S>



「台所から火が出ました。駐車場に避難してください!」という放送を合図に総合防災訓練が始まりました。愛宕の家、ナイス・デイ、ナイス・ホームから、利用者さんやスタッフが次々に非難し、全員の安全確認をしたり、愛宕の家やナイス・ホームでは夜間を想定し毛布ごと移動したり、消火器の使い方の練習を行いました。災害はないに越したことはないけれど、いざという時慌てないためにも、訓練しておくことが大切!



経管栄養 / S・O・S

「経管栄養」という言葉を聞いたことがありますか? 通常、人は口から食べ物を摂取し、体内で栄養として吸収します。しかし、口から食事を取れない場合や、口からの食事だけでは栄養が足りない場合、胃または小腸まで細いチューブを入れて、栄養剤を流し入れる方法があります。それが経管栄養です。文字通り、管(チューブ)を経て栄養を取る方法で、その管を挿入した経路により分類されます。

経鼻経管栄養: 鼻から胃へチューブを挿入する

経皮経管栄養: 内視鏡手術を行って、腹壁と胃壁(腸壁)との間にカテーテルを通し、そこから直接胃や腸に栄養剤を注入する。胃ろう(腸ろう)とも言う。



(栄養剤と使用器具)

経管栄養になっても、入浴をしたり、普通に生活することは出来ます。特に問題がある場合を除いて、口から食べることも可能ですし、食べられるようになれば取り外すことも出来ます。

愛宕の家には、胃ろうの方がみえます。食べる楽しみを味わって頂けるよう、体調を見ながら、柔らかく喉ごしの良いものや好物を口にしてもらおう心がけています。先日のお誕生日にはご家族が持参されたお汁粉を食べられたと聞きました。反面、誤嚥性肺炎を繰り返し引き起こす人に、口から食べていただくことは望ましくなく、その様な方には食べることを以外の生きる楽しみを見つけるお手伝いをすることが私達に求められます。

メリークリスマス! / ナイス・ホーム

11月から少しずつ作ってきた紙細工。それに赤・緑・黄色の絵の具を付けて、クリスマスツリーが完成しました。根気のいる細かい作業を毎日少しずつ続けてきた利用者さんに拍手! とこころどころに見える紙の白さが、積もった雪のようでとってもきれいで見ごたえがあります。12月23・24日に開催されるクリスマス会にも飾り、華やかさをプラスしますね。



柿を吊るして... / ナイス・デイ

今年は柿の豊作年だとか。デザートにお腹いっぱい食べても、まだ沢山の柿があります。そこで、干し柿に挑戦です。慎重に丁寧に皮をむき、糸で結んで干していきます。沢山の柿を前に、女性陣の手はせっせと動きます。これがまた手馴れていて、速い速い! 干す方が追いつかなくて、スタッフはフーフーと汗をかいていました。きっと美味しい干し柿が出来るはず。



ミーティング(打合せ)改めカンファレンス(会議) / S・O・S

介護する側・される側、立場が変われば見方や考え方が異なるのは当然のこと。しかし、あえて利用者さんの目線から物事を捕らえることが、良い結果につながるヒントになることもあります。この考え方はパーソンセンタードケア(その人を中心にした介護)と呼ばれ広がりつつあります。ミーティングでも取り上げられ、この考えに基づく「認知症介護マッピング(その人の状態の地図を作る)」を作ることになりました。医学的、身体的症状だけを見るのではなく、性格や趣味、ライフスタイル、個人の歴史などを知って介護を行うことが大切だということを話し合っています。それぞれのスタッフが頭の中にあることを地図に表し、共有することの大切さを感じています。

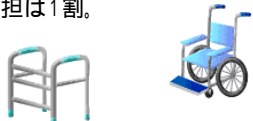

足はボカボカ / ナイス・デイ

まったりした昼下がり、スタッフのお薦めの場所という蟹江の足湯に出かけることになりました。ちょっと寒い陽気でしたが、温泉につけてしばらくすると、足も身体もボカボカ。長い間、おしゃべりをしながら足湯を楽しみました。すっかり気持ち良くなり、帰りの車内では皆さんウトウトしていました。



知らないや学べ!! (パート19)

先月は住宅改修についてお話をしましたが、今月は身近な介護用品についてのお話をします。介護用品(福祉用具とも言います)と呼ばれているものはいろいろとありますが、ここでは介護保険で利用できる介護用品について紹介します。

レンタルできる介護用品	特殊寝台及び付属品(ベッド、手すり、マット等)、床ずれ防止用具、体位変換器、手すり(工事を伴わないもの)、スロープ(工事を伴わないもの)、車いす及び付属品、歩行器、歩行補助杖(一本杖は対象外)、移動用リフト(取付に住宅改修を伴わないもの)、徘徊感知機器(認知症の人が屋外に出ようとしたとき家族に知らせるもの)	介護保険サービス事業者に指定された貸与業者からレンタルする。自己負担は1割。 
購入できる介護用品(特定福祉用具)	腰掛便座(ポータブルトイレ等) 特殊尿器(尿を自動で吸引するもの) 入浴補助用具(入浴椅子、入浴台、浴槽内手すり等)、簡易浴槽(空気式や折りたたみ式で工事を伴わないもの)	ケアマネが作るケアプランに必要な旨が書かれていることが条件。その上で都道府県の指定を受けた業者から購入する。年間10万円を上限とし、購入費の9割まで支給される。 

快適に安全に生活するため、質の良い介護を行うためには介護用品を適切に使うことが大切になります。そのためには正しい知識で介護用品を選ぶことが最初の一步です。

初めての看取り / 愛宕の家

愛宕の家の開設から1年。現在、7名の方が生活しています。先日、満93歳のOさんが愛宕の家で永眠されました。過去に入退院を繰り返し、「病院へは行きたくない!」と日々訴えていたことから、家族の同意、かかりつけ医・愛宕の家の看護師やスタッフ・ケアマネさん等の協力もあり、人生の最期を宅老所の頃から住み慣れた環境で迎えて頂くことが出来ました。私達はOさんの人生最期の看取りにより、「人間の老いや死」という自然の営みの姿に触れる機会に恵まれたことを感謝しています。

亡くなる2日前程、何度も「ありがとう」の言葉を発し、あまりにもあけなく逝ってしまいました。その朝、Oさんに関わった方々が次々と最後の挨拶に訪れて下さいました。Oさんは「死は怖いものでもなく当たり前のこと」と感じさせてくれるような安らかな顔でした。

常に前向きに生きてきたOさん。愛宕の家やナイス・デイを「しごきの館」と命名し、体操やりハビリに頑張っていたOさん。長い間お疲れ様でした。生きている限り、死は誰にでも訪れること。今回のことで、私達スタッフは生きていくことやそのお手伝いをさせていただくことについて、今一度考えるきっかけになりました。本当にありがとう。



編集後記

今月のSOS通信は100回目の発行です。読んでくださる方、様々な意見を下さる方々に支えていただいたの100号目となりました。発行当初はサイズも今の半分、白黒の印刷にクレヨンや色鉛筆で一枚一枚色づけしていたことを思い出します。これからも、小さな情報発信源として、日頃の様子を紹介や介護に関する疑問、提案、考え等をまっすぐな気持ちでお伝えしていきたいと思っています。

今年もあとわずかです。お体に気をつけてお過ごしください。そして良いお年をお迎えください。来年も良い1年になりますように(M)